

第 19 回東海北陸作業療法学会

ワークショップ

テーマ：「創造力を発揮した自助具づくりで OT を面白くする」

林 正春

JA 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院

皆さんは自助具を作っていますか？作業療法の強みや特徴を何で表現し対象者や多職種に伝えていますか？私は、創造力を発揮した自助具づくりを通じて、対象者と多職種に発信しています。近年、福祉用具の発展、今や各市に 1 店舗は存在するだろう 100 円ショップの福祉関連商品の充実など環境の変化、うまくつけれない、つくれる環境ではない、使用中に破損した場合の保証問題の心配など技術的問題が自助具作製を遠ざけていると感じます。手づくりの自助具の良さは、その過程において、対象者との間に **Narrative** や情が生まれ、他の職種では味わえない信頼関係が構築されます。私は今から 29 年前、学生の頃、アメリカ研修で視察した **Rancho Los Amigos National Rehabilitation Center** で案内してくれたインターン実習中だった作業療法学科の学生に、「ボタンエイドなどの自助具はつくりますか？」と質問したところ、「ボタンエイドはつくりません。作業療法士はほとんど自助具をつくりません。何故なら 1 ドル 30 セント（当時日本円で 1 ドル 133 円:173 円）で購入できますから」との回答で衝撃を受けたことを覚えています。「さすがテクノエイド先進国のアメリカ！」と感じ、いずれ日本もそのような時代が訪れるのではないかと思い帰国しました。そして、今まさに当時のアメリカにおける福祉用具環境と同じ「自助具は購入するもの」に近づきつつあります。医療従事者の中で唯一物を生産し治療が行える作業療法の強みや特徴を絶やすことにならないかと不安を感じています。日本の物づくり文化の良さと作業療法士の創造力というスパイスを融合させて誕生させる自助具づくりの面白さを改めてワークショップではお伝えし、自助具づくりのヒントや未来を考えていただける機会にしたいと思います。